

令和元年度(2019年度)熊本市生物多様性推進会議

-意見集約-

- 1 開催方法 書面開催
- 2 開催期間 令和2年(2020年)3月24日～3月31日
- 3 議 題 (1)令和元年度(2019年度)熊本市生物多様性関連事業実施状況について
- 4 資 料 資料1:令和元年度(2019年度)熊本市生物多様性関連事業実施状況について(まとめ)
参考資料1:令和元年度(2019年度)熊本市生物多様性関連事業実施状況について(詳細)
参考資料2:熊本市生物多様性推進会議運営要綱

○基本戦略1～知る～について

【飯田委員】

今後の生物多様性の情報の収集・発信の核となるべき4課連携プロジェクトの取組の継続は重要であり、博物館や動植物園等の施設もうまく活用し、情報発信をしていく必要がある。

【石黒委員】

熊本市のホームページを閲覧しない(出来ない)人に博物館、環境総合センター、動植物園で生物多様性に関する啓発がされている事例をいかに(市民に)伝えるかを考えることが必要。

スパルティナに関しては、それ自体を知らない人、興味ない人が多い。

【内野委員】

4課連携プロジェクト以外の部署との連携、各部署での取組に関する情報の推進を図るべき。

絶滅危惧種の生息生育場所の整理について、新しく発行された熊本県のRDB2019を検討し、市内の希少種についての取扱い等を検討する。

特に対策が必要な侵略的外来種について、今後も侵入監視を継続すると共に積極的に駆除に取組む必要がある。

【大住委員】

4課連携で取り組むのは専門的な視点が深まりとてもいいこと。

動物資料館に情報コーナーを設置されたのは、入り口としては素晴らしい。ただ、せっかく集約された情報をたとえば重点6地域のそれぞれに特化したビジターセンターのようなものを既存の施設で良いので設置し、戦略でうたったものを骨格に、膨らませて展示・情報提供すれば、市民の関心も深まると考えられる。得られた情報をもっと地域におろしていかなければ、知る広がりは望めないのではない。

展示内容については、専門家の関心も引くような、かなり高度なレベルの展示も必要。それによって、地域からの情報収集にも役立つのではないか。

絶滅危惧種の保存の検討が進み保全の実施に移っているということだが、アライグマの駆除も同じく、数値目標がないのが気になる。また、立田山などは、イノシシの進出が著しく、シカも併せて、具体的な防除策を提示する必要があるのではないか。

(質問)サイトへのアクセス数はどの程度か？

→【事務局】熊本市の環境TOPページへの年間アクセス数はH30年度が21,580件、R1年度が29,440件。

【甲斐原委員】

「R1実施状況」「課題・今後の見通し」に、「アクセス数」の具体的な数値を入れてほしい。

「課題・今後の見通し」に、「収集した情報の蓄積や発信の手法等の検討が必要。」追記してほしい。

「R1主な取組概要」に、「『…熊本市の自然環境』に関する既存情報の整理・分析」「絶滅危惧種の生息・生育情報の整理」に関して明記し、「課題及び今後の見通し」を示していただきたい。

「3団体との協力…モニタリング結果」の「とりまとめ、把握」「課題・見通し」を説明してほしい。

【毛利委員】

「生物多様性」の単語を知っている人も少ない中、身近な話題を提供することで興味を持ってもらうことが急務。

侵略的外来種のツマアカスズメバチは長崎や宮崎では発見されているが熊本では見つかっていない。

【北岡委員】

日本の農薬使用量は世界 No.1 クラスと聞かすが、熊本の農薬使用量はどの程度か？農作物次第では大量の農薬を使用していると聞いたが、豊かな自然環境や生物多様性に一番深い関わりがあると思う。

→【事務局】化学合成農薬の県内使用量は下表 5-11-3 のとおり。(令和元年度(2019 年度)版 熊本の環境～環境白書～より引用)

表 5-11-3 県内における化学肥料と化学合成農薬の使用量推移 (上段:千 t、下段:対基準年比)

「H」は平成を表す。

	基準年								
	H元	H5	H10	H15	H20	H26	H27	H28	H29
化学肥料	165.0 (100)	129.1 (78)	105.4 (64)	95.5 (58)	59.5 (36)	52.5 (32)	46.4 (28)	52.3 (32)	50.0 (30)
化学合成農薬	22.5 (100)	19.2 (85)	13.9 (62)	11.3 (50)	9.0 (40)	6.8 (30)	6.7 (29)	6.0 (27)	6.0 (27)

○基本戦略 2～学び、つながる～について

【石黒委員】

教育委員会と連携し、「生物多様性くまもと C だより」を市立の各(小中高)校で、環境教育に活用されるようにしたい。

外国産のカブトムシが伝来する事例もあり、飼育指導の注意も必要。

【内野委員】

2023 年開催予定の都市緑化フェアや策定予定の「緑の基本計画」に生物多様性を認識させる視点を盛り込むように促すべき。

生物多様性の情報発信ツールについて、ニーズに応じた情報発信を検討すべき。また、情報発信ツールの効果の評価を行い、よりよい活用方法を模索する。

【大住委員】

プラットフォームとしての「いきもんネット」は、成功した例。登録している団体のほとんどが、観察会などを実施しているので、さまざまなイベントの広報に使うことを提案します。

自然観察系の市民活動団体と学校とのコラボも効果的。学校配置の理科の先生は少ないので、自然観察の際に子ども

たちを少人数グループに分けて実施することができる。

検定に関する情報も「いきもんネット」の情報に挙げるといい。

副読本の活用も、学校内だけではなく、さまざまな場で行うことが効果的。おとなと子ども向けの副読本は分ける必要は感じない。一緒に学ぶことで理解は深まると実感している。

(質問)「緑の検定」の受験者数は何名くらいか？

→【事務局】第1回の受験者数は上級(1,2級)が193名、初級(3級)が2077名。

【甲斐原委員】

「(進捗状況及び評価等)生物多様性の…、関連団体等が作成しているパンフレット等…」に関する「R1状況・R2予定」
「課題・今後の見通し」を示していただきたい。

「(いきもんネット)」に関する2項目の「進捗状況及び評価等」は、「中学校や高校の生物部などにも登録、参加を促し…」
「子育て関係の団体などでも…幅広く広報を…」まとめてほしい(登録、参加と広報を別にするための2項目で
しょうか)。

【毛利委員】

アライグマの問題は、現在のところ人的な被害は耳にしているが、今後ともそのようなことが発生しないように慎重に
対応すべき。

【北岡委員】

第1回緑の検定は市民の自然環境に対する関心を深めることに繋がった。また、検定回数を重ねるごとに受験者が増えて
いき、結果、自然環境や生物多様性に関する輪が広がって行く。

○基本戦略3～守る～について

【石黒委員】

アカササゲの発芽実験の実施と、グリーンカーテンの作製を依頼する。

農耕地の水路(三面張)での生育調査(魚類について)

【内野委員】

絶滅危惧種の保全について、種の分布攪乱や遺伝子攪乱がおこらないように、保存個体の逸出がないように厳格な管
理をおこなう。

【仮屋崎委員】

絶滅危惧種の保全についての課題に関連して、飼育繁殖で得られた知見やデータを種ごとに集約し今後の保全活動に
さらに利用活用できるように保存管理していくことも重要。

外来種対策の実施についての課題今後の見通しに関連して、ヒラモに類似する外来水草コウガイセキショウモが市内の
水路や河川に散発的に見出される。今は侵入の初期と考えられるが、密な群落を形成してヒラモと競合する可能性があり、
今後の推移を注意してみていく必要がある。

【大住委員】

ヒラモと並んで江津湖を代表する水生植物のヒメバイカモの養生池では、ほとんど見られなくなってしまった。これからの
対策のために原因を特定しておく必要がある。

小学生対象の観察会実施の際に、ヨコヅナサシガメが悩みの種。そのような、危険な生物を挙げてもらうのも、生物多様

性に関心を持つ、いい機会かもしれません。

広域の水保全というときに、白川中流域だけに着眼しがちだが、上下流の協定も10年を過ぎ、住民への認知度も高まってきたので、それを維持しつつ、他地域の有機農業へも目を向け、守る必要がある。

海のマイクロプラスチックの問題は、海にとどまらず、川や湖からも検出されている。この問題にどう取り組むかが、問われている。排出者責任で、廃棄物の部署との連携が欠かせない。

【甲斐原委員】

「R1主な取組概要」に、それぞれ(立田山憩いの森)(水前寺江津湖公園)(動植物園)と見出しがあると分かりやすい。「進捗状況及び評価等」で、「世界的にも…プラスチックゴミ対策も」とあるが、「R1状況・R2予定」「課題・今後の見通し」を示してほしい。

【永井委員】

市内では農振農用地の80%(7,913ha)で27組織が水田や農業用水路において、地域資源の保全活動を実施している。多面的機能支払交付金では、活動項目に生物多様性保全活動に取り組むようになっているが、現状は一部の組織だけに留まっている。

特に多額の交付金を利用しているので、活動組織へ生物多様性保全活動に取り組むよう指導強化が必要。

森林・山村及び水産多面的機能発揮事業でも同様。

【毛利委員】

絶滅危惧種の保全やプラスチックごみ対策などは、生物多様性の観点から重要であると同時に、昨今叫ばれているSDGsの観点からも非常に重要。

【北岡委員】

世界的環境汚染問題になっているプラスチックごみについては、一人一人が自分問題として取り組むことが必要。全ての汚染問題解決はこれしかない。

○基本戦略4～創る～について

【飯田委員】

整備や復旧工事において、生物の生息・生育環境に配慮した事例も見られるため、生物多様性に配慮した工事事例を優良事例として取り上げるなど具体的な事例を蓄積し、各担当への周知が必要。

【石黒委員】

鶯川では改修計画で「環境アセス」が行われていたが、その結果が生かされた改修が行われるのか？

上記を動植物園の日本庭園と共に環境教育の教材に使える工夫をする。

【内野委員】

河川改修においては、ワンドや浅瀬、淵、魚道などの多様な河川環境・生態系の創出を図る。

【仮屋崎委員】

生き物の生息・生育地となる緑地の創出の民有地の緑化に関連して、市民のモチベーションのさらなる向上をめざし「緑の優良賞」のような表彰制度(マスコミ活用もあり得る)も工夫検討してみてもは。また「森の都」と呼ばれた熊本市の緑の多い将来イメージを市民や児童生徒から募集し、展示表彰することも有効。

熊本城、立田山、金峰山系を核とし白川河岸、市街地の社寺林、学校緑化樹、住宅街の庭園樹、台地斜面の二次林、坪井川遊水地、八景水谷などを通路とする緑の回廊が市街地に構築できれば、特にカブトムシ、クワガタムシ、タマムシ、カミキリムシ類などの昆虫やメジロ、シジュウカラ、エナガなどの小鳥類の市街地での移動が容易になり市民と自然のふれあう機会が増加する。

【大住委員】

「守る」ともリンクするが、護岸の整備に際してコンクリートで固めるは絶対避けるべき。自然環境再生というときに、成功しかけているところは、まず、コンクリート護岸を剥ぐことから始まっている。これからの河川改修には十分、資料を読み解き、専門家だけではなく、地域で長年活動している団体の意見も聞くべき。

江津湖の場合、生物多様性に不可欠な水辺まで私有地であることが多く、開発を止められないという理由で大きな問題。現在も取り決めはあるようだが、もっと強制力を持たなければ、保全することはできない。現在、上江津湖のゾウさんプール先の湧水池の上が造成されている。ここは、ヒメバイカモを守るために、春先の有機物や外来植物の除去をしている。さらにホテルのメッカでもあり、時期になると多くの家族連れでにぎわう。まだ造成工事までだが、その後の今年のホテルがどうなるか、観察結果をお知らせします。

【甲斐原委員】

「水路整備の実施・・・」に関連した「R1主な取組概要」に関連して、本法人のフィールドにある成道寺川では「生態系に配慮した川浚い」が実施されているが、時に農家が独自にコンボを使った川浚いを実施している。「進捗状況及び評価等」で、「水路のコンクリートによる三面張りなど・・・悪影響を及ぼす」ことは、あえてここで説明する必要はない。むしろタナゴ類やシマドジョウ等の危惧種、ブラジルチドメグサなどの外来種に配慮した「川浚い」などの事例を紹介してほしい。

【毛利委員】

現代は子供たちが「外遊び」できる環境が少なくなっていることが、ひいては外での仕事(作業)をする若者が減少するという悪循環を招いていると思うので、プレイパークのような安全な場所に子供たちの遊び場と併用できる緑を創って、木のぼり等ができる環境を創出してもらいたい。

【北岡委員】

コンクリート三面張り水路は川底部分を自然状態そのままに作ることはできないのだろうか。除草の手間はいると思うが生物多様性の用水路になる。

○基本戦略5～活かす～について

【石黒委員】

働き方改革で学校の職員(先生方)が地域の行事に出席しない方向にある。環境教育は自然(環境)主義でなければ理解を深められない。地域と学校との連携が必要なのだが。

【内野委員】

SDGsの該当項目との関連を考慮した生物多様性の施策を検討し、広報を進めていくべき。

【大住委員】

上流域の農家には、熊本市の地下水を創っているという意識が高いので水張に際しても農薬を使わずに済むので、安心なうえに経済的と非常に理解がある。しかし、現実には農業離れが多く、心配。現在、安全な農業の可視化を図るため、田んぼの生き物調べを実施している(県の農業技術課はそのバスツアーを親子参加で実施)。長年継続して有機農業を

行っているところは、タガメやタナゴ類、その他、生き物の宝庫であることを参加者と実感。美里では観察を始めて3年目に入りますが、イモリがたくさんいて熊本市の小学生を興奮させます(ヘビが4種類、それに伴ってカエルの種類も豊富ほか)。そのようなことを熊本市の農家でもすると、生産者の意識を変えることができ、消費者には安心安全の食べ物の提供と、地下水を作ってもらったことへの感謝を伝えることにもつながると思う。生物多様性の活かし方は、可視化でどのようにでもなると実感している。

【甲斐原委員】

「進捗状況及び評価等」で「…関係機関と連携して」とあるが、区役所中心の取組に加えて、民間団体との協働での取組を募集・支援することで、「生物多様性の広報」のみならず具体的な取組・地域づくりにつなげてほしい。

【毛利委員】

化学肥料や化学農薬低減技術への取組に対して支援することで引き続き安全、安心な農作物づくりを推進するとあるが、仕事柄、その点は非常に関係が深いので、一層の努力をお願いしたい。

【北岡委員】

人間は自然から離れるほど病気になるという。基本戦略5は(活かす)は日本全体の努力目標。生物多様性の広報推進は大事なこと。環境保全型農業者に対する支援は強く推進していただきたい。

○その他

【甲斐原委員】

「進捗状況及び評価等」を他項目と対比しやすいように、①②③と並行して表記してほしい。

Cプラン進行管理では2020年度は戦略の改訂に当たるため、「目標年次において可能な限り数値目標を盛り込むことを視野に」、基本戦略を全体的に意図的に数値設定と評価を行いたい。